

27年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 10月1日～ 27年10月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目	27/10月	11月	12月	
入荷動向	スギ	60.0	50.0	25.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	60.0	25.0	0.0
	トドマツ	50.0	0.0	50.0
消費動向	スギ	60.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	40.0	25.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	50.0	50.0	50.0

・スギ原木の入荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは3ヵ月連続して横ばい。カラマツ及びトドマツは10月増加、11月横ばいだが、12月はカラマツは減少、トドマツは増加。

・スギ及びカラマツ原木の消費は10月の増加が、11月、12月は横ばい。ヒノキ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ原木の在庫は10月が横ばい、11月は減少、12月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツは10月、11月は横ばい、12月は減少。トドマツは3ヵ月連続して増加。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/10月	11月	12月
スギ	40.0	50.0	33.3
ヒノキ	33.3	66.7	50.0
カラマツ	20.0	50.0	33.3
米マツ	0.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	0.0	50.0	50.0
その他	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は10月、11月の強含みが、12月は横ばい。ヒノキ及びカラマツは10月の横ばいが、11月は強含み、12月は横ばい。

・米マツ及び北洋カラマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ・カラマツとも減産を緩めたため入荷、消費は増加。在庫は生産に合わせて入荷しているのでは横ばい。

・原木工場が満杯のため、消費分を少し下回る入荷量とする予定。20%減産したことで、若干消費量は増える見込み。トドマツの入荷が増えそうなため、在庫増となる見込み、スギの在庫は微減程度と予想。

・価格強含みにより、一部買い難しさあるも、入荷は概ね順調。カラマツは冬時期に差しかかるため若干増量。一部需要期のため消費量は増。在庫は概ね変わらず。

・生産計画に添い入荷、スギ材多少増加。スギ、ヒノキ材の小径木が目立ち、質も悪化傾向にあり、特にスギ材の消費増加。在庫はスギが多少増加、冬季に向け適正在庫。

・市場の値段も上がり、気候も良く、出材は増えて来ると思う。スギ丸太の在庫は減っているため入荷を増やして行く。ヒノキは在庫が多いため入荷の制限中。消費は、生産調整(減産)を行っている。スギの在庫は増やしたいが、消費以上に入荷が多くなるかは不明。徐々に出材は増えて来るので、その時まで価格を維持する。

(原木価格)

・国産材は横ばい。北洋材は多少現地価格が下がった。

・国産材は価格変動なし、外材は中国市況の低迷により引き合いが弱く、急な価格上昇にはなり難い。

・需要期に差しかかり、エリアによる温度差あるも、全体的に強含み。外材は一部調整か。

・10月は全品種上昇、バイオマスの兼合いで下目も上昇傾向。質と価格が伴わない。9月注意促す。

・少し在庫を増やしたいので、価格を上げて様子を見る。

27年10月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	33.3	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 33.3	△ 20.0	0.0
	〃 (24mm)	50.0	20.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	20.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	50.0	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	△ 20.0	0.0
	〃 (24mm)	66.7	20.0	0.0
	〃 (28mm)	16.7	0.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 40.0	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	0.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 20.0	0.0	0.0

・合板の生産は、15mmが10月、11月に減少するが、それ以外は増加ないし横ばい。12月は全品目で生産は横ばい。

・合板の出荷は、15mmが10月、11月に減少するが、それ以外は増加ないし横ばい。12月の出荷は全品目横ばい。

・合板の在庫は、12mm、15mm、28mmが10月に減少するが、それ以外は横ばいで推移。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/10月	11月	12月
構造用(9mm)		20.0	0.0	0.0
〃 (12mm)		16.7	20.0	0.0
〃 (15mm)		0.0	0.0	0.0
〃 (24mm)		0.0	20.0	0.0
〃 (28mm)		0.0	20.0	0.0

・合板の出荷価格は、15mmが3ヵ月連続して横ばいであるが、それ以外は10月、ないし11月で強含みとなるが、12月は全て横ばい。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・在庫不足気味。
- ・減産が緩み、9mm以外生産を増やす。先月在庫と生産アップした分を出荷する。生産も増やすが、先月の受注残プラス今月の受注も順調に入ってきている。但し、トラックが取れにくくなって来たのが心配。
- ・12mm、24mmは少々生産アップの予想。12mmは荷動きが多いため出荷は増加の予想。
- ・少量の取り扱いのため、大きく変化なし。
- ・計画通り生産、9月中旬より24mmが増加。出荷は、生産量に対し8%増、特に24mmの出荷が増加。在庫は先月比10%減、冬季にかけて適正在庫と思われる。
- ・在庫を見ながら生産調整を行う。実需と思われる動きは余りなく、月末にかけて問屋による決算売りが入り、若干荷動きあり、これからの秋需に期待したい。出荷状況を見ながらの生産が続く、在庫は横ばいが続くと思う。

(合板価格)

- ・10月価格、12mmを20円アップ。24mm、28mmは横ばいをアナウンスした。
- ・需給と生産調整をきちんと進めて欲しいところ。
- ・7月に望まれていた単価には、未だ程遠いが、10月よりやや上昇傾向にある。
- ・今後の価格上昇に期待したい。